



壁付2ハンドル混合栓

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

このたびは、壁付2ハンドル混合栓をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

使用圧力条件について

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- *電気温水器と組み合わせる場合は、特にご注意ください。

安全上のご注意

施工・使用される前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ずお守りください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

必ず実行 必ず実行していただく「強制」を示します。

禁止 してはいけない「禁止」を示します。

注意 気をつけていただきたい「注意」を示します。

接触禁止 「接触禁止」を示します。

施工上のご注意



必ず実行

- 配管内のゴミや砂などは、完全に洗い流してください。
- 給湯機からの配管は、配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。
- 各部の接続を行う際は、パッキンが付いていることやそれらに破損・変形がないか必ずご確認ください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
- 水勢調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。
- 給水・給湯配管および止水栓をキャビネットや流し台の裏側(壁の中)に配管(隠蔽配管)する場合は、必ず点検口を設置し、作業可能なスペースを確保してください。経年変化や劣化による漏水を発見できず、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。



禁止

- 温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。
- 元止式湯沸器には使用しないでください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。
- 湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。
- 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。
- 85℃より高温で使用されますと、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
- 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。



注意

- 他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯をご使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

使用上のご注意



必ず実行

- ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
- 湯をご使用の際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。
- 湯をご使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。
- 可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので修理をご依頼ください。



禁止

- 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60℃程度をおすすめします。
- 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。



注意

- 湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分ご注意ください。
- 小さいお子様だけのご使用は避けてください。やけど、ケガをする恐れがあります。
- 他所の水栓を同時使用されると、やけどの恐れがありますのでご注意ください。同時使用により水圧変動が起こり、湯の使用時に湯温が急上昇することがあります。

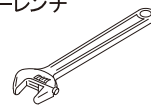


接触禁止

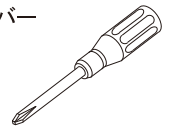
- 高温の湯をご使用の際は、吐水口(パイプ)に直接触れないでください。吐水口(パイプ)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。

施工に必要な工具

●モンキーレンチ



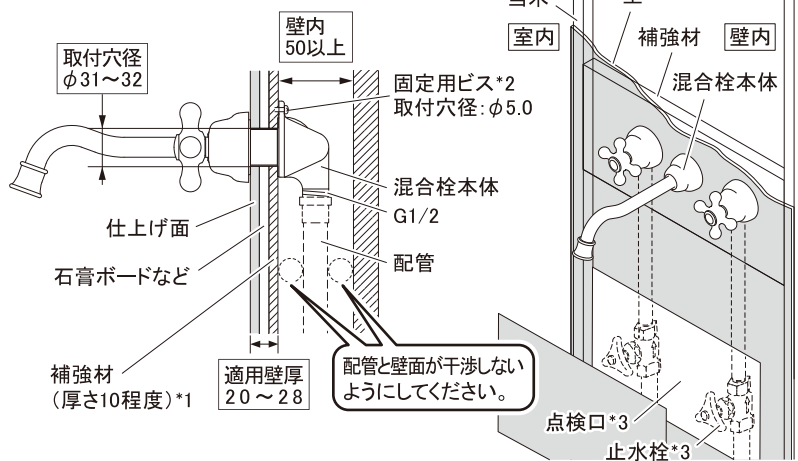
●プラスドライバー



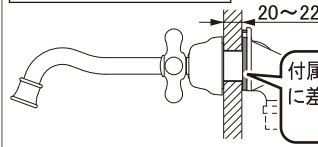
取付けの前に

- *数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を開けて取付作業を行ってください。
- *取付作業を行う前に下記の事項をご確認ください。

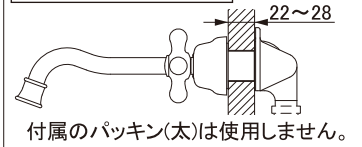
〈取付条件〉(単位:mm)



取付壁厚20~22の場合



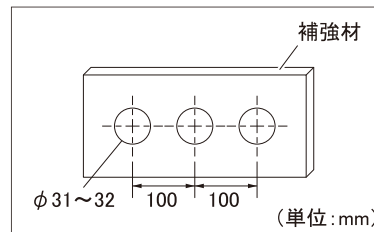
取付壁厚22~28の場合



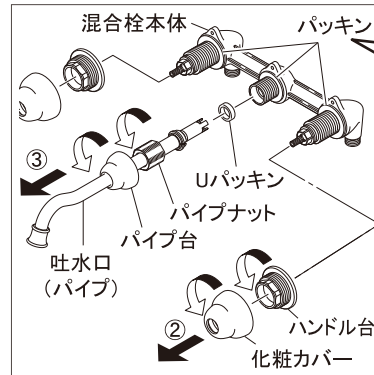
- *1 本製品を取付可能な補強材(厚さ10ミリ程度)を別途ご用意ください。
- *2 本製品を補強材に固定するため、皿タッピングビスφ4.0~4.5ミリ(3本)を補強材の厚みに合わせて別途ご用意ください。
- *3 本製品を取付ける際は、配管に止水栓(バルブ)を設置し、点検口を設けてください。

取付方法

1.補強材に本製品を取付けます。

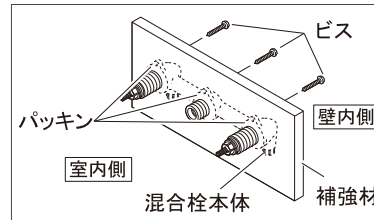


①補強材に本製品を取付けるための穴をあけます。

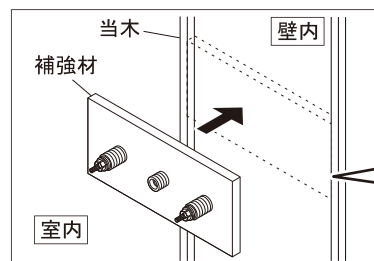


④ 取付壁厚20~22ミリの場合
付属のパッキン(太)に差替えます。
*ビス穴を合わせる

⑤ 混合栓本体側にパッキン(取付壁厚20~22ミリの場合はパッキン(太))が付いていることをご確認のうえ、手順①で穴をあけた補強材に差込み、ビスで固定します。



2.本製品を取付けた補強材を壁面に取付けます。

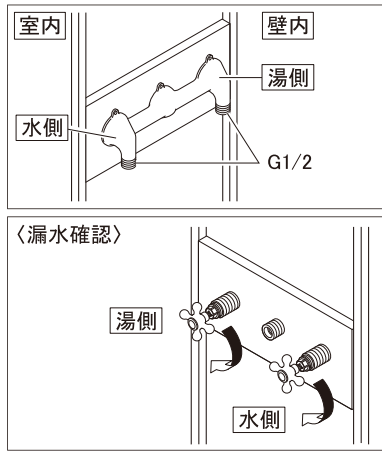


混合栓本体を取付けた補強材を当木に取付けます。
斜線部分(当木と補強材)の面が平面になるように固定します。

裏面へ続く➡

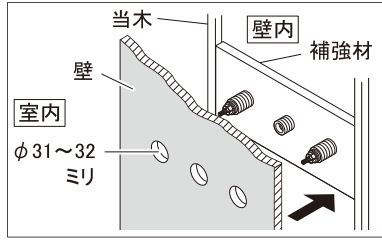
取付方法(つづき)

3.配管を取付け、止水栓と接続します。



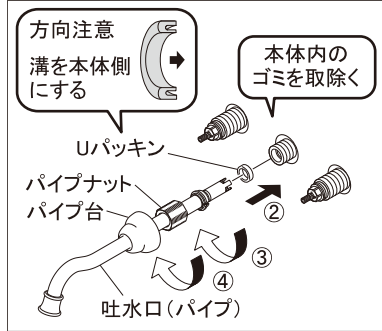
- ①配管を取付けます。
*漏水のないように施工してください。
- ②ハンドルを差込み仮組みした状態で、ハンドルを時計まわりにまわして止水位置にします。
*水側・湯側ともに時計まわり止水
- ③止水栓または元栓を開き、混合栓本体が止水状態で、壁内の配管の接続部に漏水がないか確認します。

4.壁面の仕上げを行い、ハンドルなどを取付けます。

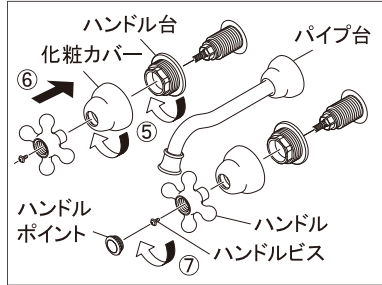


- ①壁面を仕上げます。
- ②混合栓本体内のゴミを取除き、左図のようにUパッキンを混合栓本体に入れます。
- ③本体側に吐水口(パイプ)を真下にした状態で差込みパイプナットを「レンチ」などでしっかり締付けます。

*製品構造上、吐水口は若干動きますがパイプナットが締付けられていれば正常です。



- ④パイプ台を締付けます。
- ⑤ハンドル台を「レンチ」などでしっかりと締付けてから化粧カバーを取付けます。
- ⑥ハンドルを混合栓本体に差込み、時計まわりにまわして止水位置にします。
*水側・湯側ともに時計まわり止水
- ⑦同梱のハンドルビスを「プラスドライバー」で締付け、ハンドルポイントを取付けます。
*ハンドルポイント(cold)・・・向かって右側
ハンドルポイント(hot)・・・向かって左側



施工後の確認

- ①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないかを確認します。
漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉め、漏水する箇所を施工し直してください。
- ②ハンドルを開き、湯水の混合具合および吐水状態を確認します。
*適量、適温で吐水するために、止水栓で水量、湯量を調整してください。

使用方法

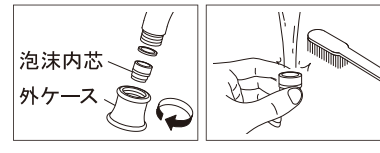


ハンドルを時計まわりにまわすと「止水」、反時計まわりにまわすと「吐水」します。

必ず実行 湯を使用する際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。

お手入れのしかた

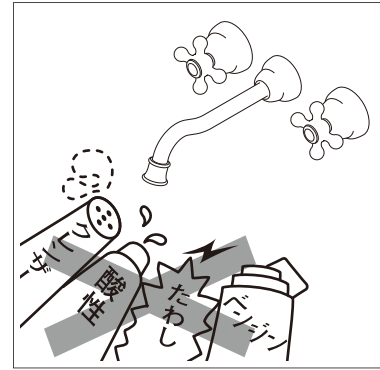
泡沫内芯のお掃除



最初ご使用になっていた時より著しく水の出が悪くなった場合は、泡沫内芯を取外して、ゴミなどの異物をブラシなどで水洗いして取除いてください。

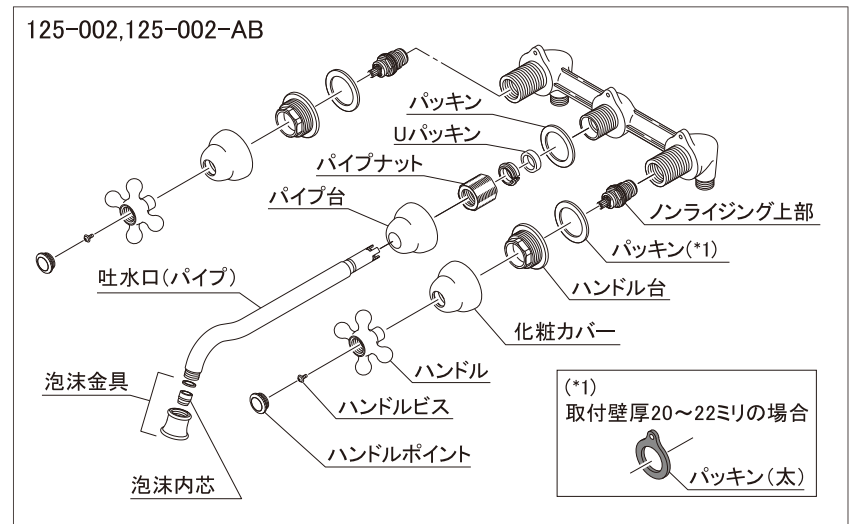
器具のお手入れ

いつまでも美しくご使用いただくために。



- 水栓器具の金属部
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいでください。
 - 水栓器具のプラスチック部・塗装面
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭き取ってください。
- 注意** 金属たわしやクレンザー・みがき粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

分解図



* 製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。



株式会社 カクダイ
本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124
東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611
広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371